



OncoTherapy
Science, Inc.

第6期 事業報告書

平成18年4月1日 ▶ 平成19年3月31日

【 Profile 】

当社は、癌関連遺伝子等の網羅的解析の研究成果をもとに、癌関連遺伝子及びその遺伝子産物に関する情報や医薬候補物質等（抗体、癌ペプチドワクチン、低分子医薬、核酸医薬等）を、製薬企業及び診断薬開発企業等に対して提供することを主な事業としております。一日も早く、副作用が少なく、かつ効果の高い、抗癌剤・診断薬を世に送り出すべく、全役員・従業員一同、全力を尽くす所存でございます。



OncoTherapyScience, Inc.

【 社名の由来 】

当社のロゴマークは、櫟（イチイ）の木の実を表しております。櫟は、アイヌ語で「オンコ」と言い、「神の木」を意味しております。

また、ラテン語で「オンコ」とは腫瘍（癌）を意味しており、当社の名前「OncoTherapy Science」は、科学的アプローチによるエビデンスに基づいた癌治療の意味を込めて命名しております。

当社は厳しい環境の中でしっかりと根を張り、神の木として成長し続けるオンコの木のように、敢然と癌に立ち向かうバイオベンチャーであり続けたいと願っております。



【 目次 】

| | |
|--------------------------|----|
| ごあいさつ | P1 |
| 事業展開の概況（平成18年4月～平成19年3月） | P2 |
| ■ OTSの研究・開発プロジェクト | P3 |
| 経営成績の推移（平成18年4月～平成19年3月） | P6 |
| 会社概要／経営体制 | P8 |
| 株式の状況 | P9 |



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素より当社に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、第6期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、「より治療効果が高く、より副作用の少ない癌治療薬・治療法を、一日も早く癌に苦しむ患者の皆様へ届けること、癌との闘いに勝つこと」を企業使命として掲げ、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長中村祐輔教授と共同でほぼ全ての癌を対象にした網羅的な遺伝子発現解析等を実施し、既に多くの癌治療薬開発に適した標的タンパクを同定しております。現在、これらの標的タンパクに対し癌ワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬等のより製品に近い創薬研究を積極的に実施しているほか、新生血管阻害剤OTS102の臨床開発を進めております。

今後においても、治療効果が高く、副作用の少ない癌治療薬・治療法を一日も早く世に送り出すことで社会に貢献するとともに、当社の企業価値を高めて株主の皆様のご期待にお応えできるよう、役員・社員が一丸となって全力で事業を推進してまいります。

引き続き、暖かいご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



平成19年6月



代表取締役社長 富田 憲介

■事業展開の概況

◎ 当事業年度における事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油高、原材料価格上昇や、金利引き上げ等による影響の懸念や将来に対する不透明感がいまだに払拭しえないものの、結果としては輸出の拡大による好調な企業収益を背景とした設備投資増加や雇用環境の改善等により個人消費も底堅く推移するなど緩やかな拡大基調で推移してまいりました。一方、医薬品業界においては、後発品の一層の使用促進等により新薬メーカーにおいては生き残りをかけた新薬開発競争が激しさを増し、また国内製薬企業間では、合併・再編が進行しております。

当社グループにおいては、東京大学医科学研究所との共同研究成果である癌関連遺伝子の情報を基に、低分子医薬、抗体医薬、ワクチン、核酸医薬等の医薬品の用途毎に、創薬研究として医薬品候補物質の同定及び最適化を積極的に展開しているほか、新生血管阻害剤OTS102の開発を実施しております。

当事業年度における事業収益につきましては、提携先製薬企業からの研究協力金や開発協力金の他、研究の進展に伴うマイルストーン収入を受領し、当期における事業収益は804百万円となり、一方、医薬品候補物質等の創薬研究活動を積極的に実施したことにより研究開発費が増加したことなどから、経常損失は1,311百万円、当期純損失は1,323百万円となりました。

なお、当社グループは当事業年度より連結財務諸表を作成しているため、前年同期との対比は記載しておりません。

◆ 提携先企業一覧（共同研究先を除く）

| 提携先 | 対象癌種 | 開発用途 | 契約締結時期 |
|--------------|--------------------|------------|----------|
| (株)医学微生物学研究所 | すべての癌種及び子宮内膜症 | 診断薬及び研究用試薬 | 平成14年6月 |
| 塩野義製薬(株) | 肺癌・前立腺癌・乳癌 | 低分子医薬 | 平成14年8月 |
| 大塚製薬(株) | 大腸を始めとする各種癌(個別遺伝子) | 癌ワクチン | 平成15年10月 |
| (株)ヤクルト本社 | 肺癌 | 抗体医薬 | 平成16年3月 |
| (株)クレハ | 膵臓癌 | 抗体医薬 | 平成16年6月 |
| 扶桑薬品工業(株) | 大腸癌 | 新生血管阻害剤 | 平成17年4月 |

◎ OTSの事業領域

当社の研究開発は、平成13年4月からの東京大学医科学研究所との共同研究により出発致しました。当該研究は、各癌種において特異的に発現する遺伝子を網羅的に解析することにより、創薬ターゲットとなる癌関連遺伝子及び遺伝子産物を単離することを目的としており、主に基礎研究領域に重点を置いたものとなっております。

その後、基礎研究の継続的な実施による進展とともに、当社グループの事業領域は、より医薬品の開発に近い、創薬研究へと拡大しております。癌ワクチンにつきましては、平成18年6月に設立したワクチン・サイエンス株式会社において、新規ペプチドワクチンの探索(創薬研究)を進めており、抗体医薬についても、平成15年9月より株式会社医学微生物学研究所及び株式会社抗体研究所との間で結成した抗体医薬コンソーシアムを組成しているほか、抗体医薬の開発・製造・販売を目的として設立したイムナス・ファーマ株式会社において早期の臨床試験開始を目指しております。また、平成17年10月にはBioWa,Inc.とADCC活性を更に高めた抗体医薬を創出するための共同研究開発を実施することと致しました。

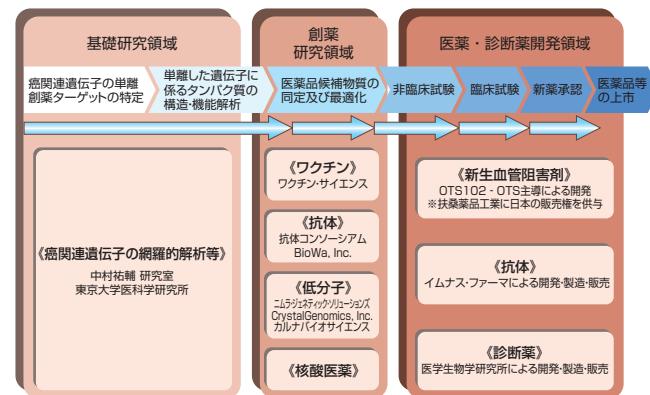
低分子医薬に関しては、株式会社ニムラ・ジェネティック・ソリューションズ、CrystalGenomics,Inc.、カルナビオサイエンス株式会社と共同研究を進めております。

医薬品の開発につきましては、平成18年3月に新生血管阻害剤OTS102第1相臨床試験の治験計画届出書の提出を行いました。

このほか臨床応用を目指した抗体医薬、癌ワクチン、核酸医薬等の創薬研究を当社創薬研究所において実施しております。

以上のように、当社グループは「より副作用の少ない癌治療薬・治療法を一日も早く癌に苦しむ患者の皆様へ届けること、癌との闘いに勝つこと」という企業使命の実現のため、日々研究開発を推進しております。

なお、当事業年度における当社グループの事業領域は次の通りです。



◎ OTSの研究・開発プロジェクト

◆基礎研究領域

抗癌剤開発のための新たな癌関連遺伝子（産物）の単離

当社は、中村祐輔教授（東京大学医科学研究所、当社非常勤取締役を兼業）を研究代表者として、基礎研究である「抗癌剤開発のための新たな癌関連遺伝子（産物）の単離、及び分子標的治療薬（治療法）開発の共同研究」を同大学医科学研究所において実施しております。当該共同研究は、当社事業の基盤となるものであり、この研究成果を活用し、当社の分子標的治療薬（治療法）を世に送り出すことを目指しております。

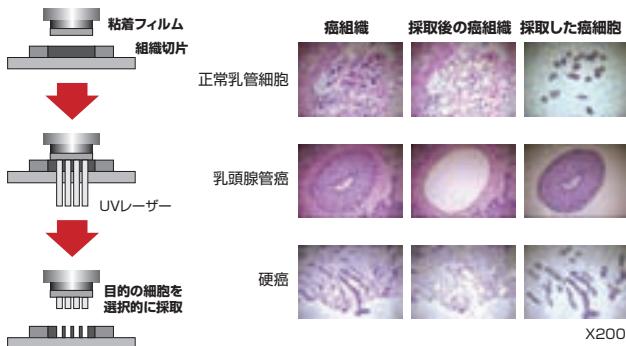
なお、癌関連遺伝子の探索に関する網羅的な解析方法の概要は以下の通りです。

・当社の癌関連遺伝子の解析方法

<ステップ1：LMM法による組織切片からの癌細胞の取り出し>

癌組織を顕微鏡下で観察すると正常細胞と癌細胞が複雑に入り混じった組織像を呈しており、精度の高い癌遺伝子解析を実施するためには、まずこのような組織から癌細胞のみを取り出す必要があります。当社共同研究においては、LMM（レーザーマイクロビームマイクロダイセクション）法と呼ばれる技術により99%以上の純度をもって癌組織より癌細胞を選択的に回収し、これを用いた遺伝子発現解析を実施しております。

LMM（レーザーマイクロビームマイクロダイセクション）



<ステップ2：取り出した癌細胞よりmRNAを抽出し、cDNAを合成>
ステップ1で回収した癌細胞からRNAを抽出し、これを逆転写酵素を用いつつ蛍光色素で標識したcDNAを作成し、ステップ3のマイクロアレイの実験に供します。その際、陰性対象として癌細胞に対応する正常細胞からも同様にRNAを抽出して癌細胞とは異なる色の蛍光色素で標識したcDNAを作成します。

<ステップ3：癌細胞で特異的に発現する候補遺伝子を特定>

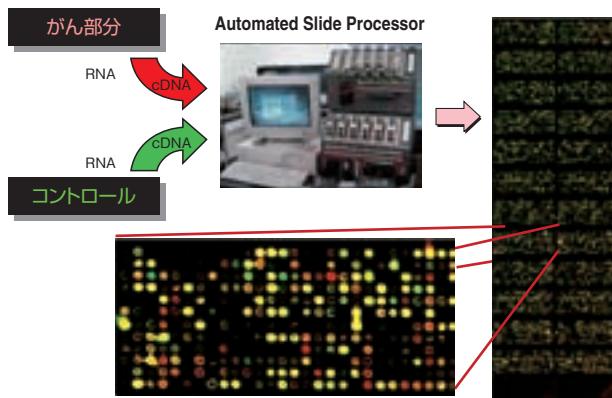
ステップ2の操作により異なる蛍光色素で標識された癌細胞由来のcDNAと、正常細胞由来のcDNAを混合し、マイクロアレイ上で競合ハイブリダイゼーションを行うことにより、癌細胞と正常細胞での遺伝子発現量の比を検出し、癌細胞で特異的に発現する候補遺伝子を特定します。

<ステップ4：分子標的治療薬の標的となりうる遺伝子の絞込み>

上記で特定した候補遺伝子について、分子標的治療薬のターゲットとなりうるか否かを下記の実験により検証します。

- 遺伝子の働きを阻害することにより、癌細胞の増殖が阻害されるか、アンチセンス法及びRNAi等により確認
- 生命の維持に重要な臓器、例えば、心臓、肝臓、腎臓、肺などで発現が少ないかをまず正常臓器のマイクロアレイで得たデータベースと比較し、さらにRT-PCRやノザンプロット法（mRNAの発現量を調べる方法）等により発現の有無を確認

これらの実験により選出された遺伝子について創薬を目的とした詳細な機能解析を実施致します。



■ 分子標的候補遺伝子

cDNAマイクロアレイとLMMを用いた遺伝子発現解析により、癌で高発現し、正常臓器のうち生命維持に重要な臓器での発現が極めて低い遺伝子群を同定しました。これらの遺伝子の中には、癌になった結果発現が高くなっているような遺伝子と、その発現が高いことが癌化に有利に働いている遺伝子の、2種類の遺伝子が混在しています。そこで、遺伝子発現情報で選ばれた候補遺伝子について、その働きが癌細胞の増殖や生存に重要な役割を演じているかどうか、RNA干渉という技術を用いて解析を行っています。

すなわち、RNA干渉での遺伝子機能阻害実験により、その働きを特異的に阻害すると癌細胞の増殖が阻害される、あるいは細胞が死ぬような遺伝子を創薬研究の対象としています。つまり

- ・ 癌細胞で高発現している
- ・ 正常臓器での発現は極めて低い
- ・ 癌の増殖または生存に必須である

という、3つの基準を満たす分子を、OTSの基盤技術により絞り込むことにより、初めて分子標的治療薬開発のための標的遺伝子が同定できることとなります。

分子標的遺伝子の単離におけるOTS基盤技術

1. 臨床サンプルを用いた遺伝子発現解析
 - ・ 20-80症例／癌種毎
2. 癌特異的発現亢進遺伝子の単離
 - ・ Laser Microbeam Microdissection (LMM) システム
癌組織から癌細胞だけを選択的に回収
 - ・ cDNA マイクロアレイシステム
ヒト全遺伝子の発現を網羅的に解析可能
3. 癌遺伝子としての特定
 - ・ RNAiによる機能阻害検討
 - ・ 遺伝子機能解析研究
4. 正常臓器における発現確認
 - ・ 生命の維持に重要な臓器で発現が無いが極めて低い
 - ・ 副作用の回避が期待される

■ 当事業年度における研究開発の状況

当社グループは、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長中村祐輔教授と共同で、ほぼ全ての癌を対象とした網羅的な遺伝子発現解析等を実施し、既に多くの癌治療薬開発に適した標的タンパクを同定しております。また、近年それらの標的に対し、癌ワクチン、抗体医薬、核酸医薬等の、より製品に近い創薬研究も積極的に展開し、既に医薬品としての開発を決定し臨床試験を準備中の医薬品候補物質も複数有しております。

● 基礎研究領域

創薬ターゲットの特定等を行う基礎研究領域においては、ヒト全遺伝子(約23,000遺伝子)の遺伝子発現パターンを網羅的に検索できるcDNAマイクロアレイのシステムにより大腸癌、胃癌、肝癌、非小細胞肺癌、小細胞肺癌、食道癌、前立腺癌、膵癌、乳癌、腎癌および膀胱癌について発現解析が終了しております。これらの発現解析情報から癌で発現が高く正常臓器では発現の低い遺伝子を選択し、更に機能解析により特定した、癌の発生の原因として機能している遺伝子を分子標的治療候補遺伝子として創薬研究を実施しております。

● 創薬研究領域

医薬品候補物質の同定及び最適化を行う創薬研究領域においては、医薬品の用途毎に、より製品に近い研究を積極的に展開しております。

癌ワクチンにつきましては、大腸癌で2遺伝子、胃癌で2遺伝子、肺癌で4遺伝子、膀胱癌で2遺伝子、腎臓癌で2遺伝子および膵癌でも有効性が期待できる腫瘍新生血管内皮細胞などの新規腫瘍抗原4遺伝子を対象としたペプチドワクチンを既に同定しております。これらは、対象遺伝子が発現している癌細胞・腫瘍新生血管内皮細胞に対して、癌患者の特異免疫を介して細胞傷害活性を有する新規抗腫瘍ワクチンとなることが期待されます。さらに、より多くの候補ペプチドの単離を目指し、現在、前立腺癌、膵癌、非小細胞肺癌等でペプチドワクチンのスクリーニングを実施しております。

抗体医薬につきましては、標的癌特異的抗原を7分子に絞り込み、株式会社医学生物学研究所並びに株式会社抗体研究所との間で組織する抗体医薬コンソーシアムにおいて、マウスモノクローナル抗体、治療用ヒト抗体を効率よく作製する体制を構築しております。現在、抗体医薬として必要な特性である、高い反応選択性、高い結合活性、単独での細胞傷害活性を呈する抗体を中心にスクリーニングしており、現在は、上記候補分子に対する有望な抗体(ヒト抗体、マウスモノクローナル抗体)について、担癌マウスを用いた腫瘍への集積評価、腫瘍の縮小効果につ

いてin vivoでの検討を実施中で、担癌マウスにおいて腫瘍への優れた集積性を呈する抗体を多数取得しております。これらの抗体は治療用抗体のみならず、DDSツールとしての応用も模索中です。また、in vitro、in vivoでの評価結果から有望なマウスモノクローナル抗体については、順次、ヒト化し、抗体医薬候補として更なる検討を進める予定です。これらの抗体スクリーニングの結果、ADCC活性を有する抗体については、一部、Biowa, Inc.と共同研究を行うことで合意しております。

低分子医薬につきましては、株式会社ニムラ・ジェネティック・ソリューションズと、当社が所有する癌特異的蛋白質を標的分子とした、天然高分子化合物のスクリーニング等に関する共同研究を実施中のほか、Crystalgenomics, Inc.とは当社との間で2つの癌特異的蛋白質に関する低分子化合物の探索、最適化および関連する研究を共同で実施しております。これとは別にカルナビオサイエンス株式会社、Crystalgenomics, Inc.とは当社が所有する2つの癌特異的リン酸化酵素を標的とした低分子化合物の探索及び関連する研究を共同で実施しております。これらは、いずれもスクリーニング系の構築から、候補化合物の単離、同定作業を進めているところであり、幾つかの候補遺伝子に関してはhit化合物の単離以降のステージに進んでおります。

また、当社はcDNAマイクロアレイで単離した多数の癌関連遺伝子を用いて、効果的で副作用の少ない核酸医薬への展開も試みております。癌特異的に発現する遺伝子をRNAiによって発現抑制することで、癌細胞のみを選択的に殺傷する遺伝子を絞り込む研究を精力的に実施しており、腫瘍選択的な細胞増殖抑制効果を特に強く呈するRNAiの対象となる遺伝子が4種類選択されてきております。これらについては、適切なDDSシステムならびにRNA安定化技術を採用した動物実験による検証を実施中であります。

このように、独創的な分子標的治療薬の創製を目指した創薬研究を、多岐にわたり展開しております。

● 医薬・診断薬開発領域

医薬開発領域においては、扶桑薬品工業株式会社との提携が成立した癌の新生血管阻害剤OTS102については第I相臨床試験の患者登録を開始いたしました。平成18年12月には、扶桑薬品工業株式会社との間で、OTS102の新たな癌種への適応拡大についても提携いたしました。

また、平成19年3月に「膀胱癌再発予防ペプチドワクチン」開発プロジェクトが独立行政法人科学技術振興機構による独創的シーズ展開事業委託開発に採択されたことにより、7年間に渡って総額約15億円の

開発費の支援を受けることができ、膀胱癌再発予防ペプチドワクチンの臨床試験をすすめることとなりました。

診断薬開発においては、臨床の現場で使用しうる十分に特異性の高い診断薬が現在存在していない膵臓癌および婦人科領域等の疾患に対し、提携先であります株式会社医学生物学研究所は、当社が見出したそれぞれの疾患に重要な役割を持つ遺伝子を標的として、それぞれ高感度で、高い特異性を示すELISA試薬の開発に成功しました。今後それらについてキット化を行った後臨床試験を開始し、可能な限り早期の承認、上市を目指しております。

● OTS102について

当社は平成18年3月に、新生血管阻害剤OTS102について第I相臨床試験の治験計画届出書の提出を行いました。OTS102は、これまでに他社にて開発されてきた新生血管阻害剤とはまったく異なる作用機序を利用したものです。腫瘍の血管新生に関わる重要な遺伝子であり、癌細胞の生存と成長に必要な新生血管の内皮細胞に高発現し、正常組織にはほとんど発現していないVascular Endothelial Growth Factor Receptor 2(VEGFR2)というタンパクの一部からなる薬剤です。その投与により腫瘍への栄養を供給している新生血管内皮細胞に対する強い免疫反応が誘導され、抗腫瘍効果を示すことが動物実験で示されています。また、癌周辺にはVEGFR2を持つ新生血管が多数存在することが多い反面、通常の成熟化した正常血管はVEGFR2をほとんど持たないことから、OTS102は癌増殖に関与する血管に対してのみ働く、副作用の少ない薬剤になることが期待されております。

◎ 本社及び創薬研究所



■ 経営成績の推移 (連結)

連結貸借対照表

| 科目 | 当連結会計年度 平成19年3月31日現在 |
|----------|-------------------------|
| 資産の部 | |
| 流動資産 | 8,076,788 |
| 現金及び預金 | 4,228,814 |
| 売掛金 | 172,684 |
| 有価証券 | 3,494,345 |
| たな卸資産 | 25,641 |
| その他 | 155,302 |
| 固定資産 | 695,194 |
| 有形固定資産 | 366,615 |
| 無形固定資産 | 169,469 |
| 投資その他の資産 | 159,109 |
| 資産合計 | 8,771,983 |

(単位：千円)

| 科目 | 当連結会計年度 平成19年3月31日現在 |
|-----------|-------------------------|
| 負債の部 | |
| 流動負債 | 246,302 |
| 未払金 | 204,840 |
| 未払法人税等 | 16,877 |
| その他 | 24,584 |
| 固定負債 | 2,489 |
| 繰延税金負債 | 2,489 |
| 負債合計 | 248,791 |
| 純資産の部 | |
| 株主資本 | 8,523,191 |
| 資本金 | 3,465,396 |
| 資本剰余金 | 6,430,618 |
| 利益剰余金 | △1,372,822 |
| 純資産合計 | 8,523,191 |
| 負債及び純資産合計 | 8,771,983 |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて記載しております。

(注) 当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前期との比較を行っておりません。

連結損益計算書

| 科目 | 当連結会計年度 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日 |
|--------------|--------------------------------------|
| 事業収益 | 804,491 |
| 事業費用 | 2,153,174 |
| 研究開発費 | 1,872,554 |
| 販売費及び一般管理費 | 280,619 |
| 営業損失 | 1,348,683 |
| 営業外収益 | 87,156 |
| 受取利息 | 15,229 |
| 助成金収入 | 70,050 |
| 雑収入 | 1,876 |
| 営業外費用 | 50,379 |
| 株式交付費 | 90 |
| 持分法による投資損失 | 50,289 |
| 経常損失 | 1,311,905 |
| 特別損失 | 15,547 |
| 固定資産除却損 | 15,547 |
| 税金等調整前当期純損失 | 1,327,453 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,947 |
| 法人税等調整額 | △10,037 |
| 当期純損失 | 1,323,362 |

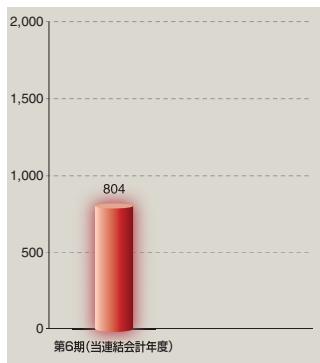
(単位：千円)

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて記載しております。

(注) 当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前期との比較を行っておりません。

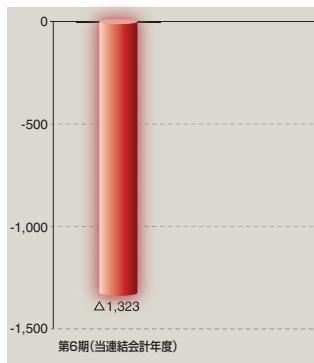
事業収益(連結)

(単位：百万円)



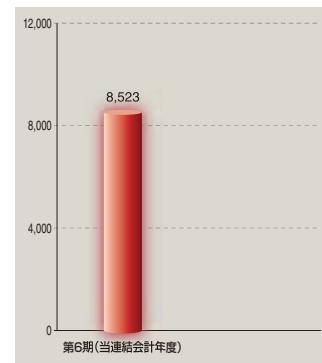
当期純損失(連結)

(単位：百万円)



純資産額(連結)

(単位：百万円)



(注) 当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前期との比較を行っておりません。

■経営成績の推移(個別)

貸借対照表

(単位：千円)

| 科 目 | 当 期 | | 科 目 | 当 期 | |
|----------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|
| | 平成19年3月31日現在 | 平成18年3月31日現在 | | 平成19年3月31日現在 | 平成18年3月31日現在 |
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 流動資産 | 7,880,445 | 9,436,569 | 流動負債 | 241,805 | 353,081 |
| 現金及び預金 | 4,025,187 | 8,920,336 | 未払金 | 203,155 | 260,824 |
| 売掛金 | 172,684 | 234,753 | 未払費用 | 11,582 | 10,845 |
| 有価証券 | 3,494,345 | — | 未払法人税等 | 16,140 | 11,794 |
| 原材料 | 23,192 | 6,137 | 未払事業所税 | 1,430 | 1,430 |
| 貯蔵品 | 2,448 | 1,765 | 前受金 | — | 64,750 |
| 前渡金 | 42,581 | — | 預り金 | 9,496 | 3,436 |
| 前払費用 | 23,066 | 29,285 | 固定負債 | 2,489 | 12,527 |
| 未収還付消費税等 | 31,660 | 25,217 | 繰延税金負債 | 2,489 | 12,527 |
| 未収入金 | 50,586 | 192,264 | 負債合計 | 244,294 | 365,609 |
| その他 | 14,690 | 26,809 | 資本の部 | | |
| 固定資産 | 989,723 | 691,575 | 資本金 | — | 3,458,845 |
| 有形固定資産 | 351,772 | 411,292 | 資本剰余金 | — | 6,424,067 |
| 建物 | 158,479 | 167,136 | 資本準備金 | — | 6,424,067 |
| 機械装置 | 49,654 | 68,973 | 利益剰余金 | — | △120,377 |
| 工具器具備品 | 143,637 | 175,182 | 任意積立金 | — | — |
| 無形固定資産 | 169,469 | 172,209 | 特別償却準備金 | — | 19,720 |
| 特許権 | 149,974 | 146,479 | 圧縮記帳準備金 | — | 23,622 |
| ソフトウェア | 19,422 | 25,656 | 当期末処理損失(△) | — | 163,721 |
| 電話加入権 | 72 | 72 | 資本合計 | — | 9,762,535 |
| 投資その他の資産 | 468,481 | 108,073 | 負債及び資本合計 | — | 10,128,145 |
| 長期前払費用 | 1,279 | 1,077 | 純資産の部 | | |
| 関係会社株式 | 410,000 | 50,000 | 株主資本 | 8,625,873 | — |
| 差入保証金 | 57,201 | 56,995 | 資本金 | 3,465,396 | — |
| 資産合計 | 8,870,168 | 10,128,145 | 資本剰余金 | 6,430,618 | — |
| | | | 資本準備金 | 6,430,618 | — |
| | | | 利益剰余金 | △1,270,140 | — |
| | | | その他利益剰余金 | △1,270,140 | — |
| | | | 特別償却準備金 | 10,887 | — |
| | | | 圧縮記帳準備金 | 7,373 | — |
| | | | 繰越利益剰余金 | △1,288,400 | — |
| | | | 純資産合計 | 8,625,873 | — |
| | | | 負債及び純資産合計 | 8,870,168 | — |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて記載しております。

損益計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 当 期 | | 前 期 | |
|-----------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日 | 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日 | 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日 | 自平成17年4月1日 至平成18年3月31日 |
| 事業収益 | 804,491 | 1,164,764 | | |
| 事業費用 | 2,030,018 | 1,998,213 | | |
| 研究開発費 | 1,773,728 | 1,769,182 | | |
| 販売費及び一般管理費 | 256,290 | 229,030 | | |
| 営業損失 | 1,225,527 | 833,448 | | |
| 営業外収益 | 87,093 | 289,469 | | |
| 受取利息 | 15,166 | 4,415 | | |
| 助成金収入 | 70,050 | 281,264 | | |
| 雑収入 | 1,876 | 3,788 | | |
| 営業外費用 | 90 | 623 | | |
| 新株発行費 | — | 506 | | |
| 株式交付費 | 90 | — | | |
| 付帯税納付額 | — | 116 | | |
| 経常損失 | 1,138,523 | 544,602 | | |
| 特別損失 | 15,547 | — | | |
| 固定資産除却損 | 15,547 | — | | |
| 税引前当期純損失 | 1,154,071 | 544,602 | | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,729 | 3,053 | | |
| 過年度法人税、住民税及び事業税 | — | 6,956 | | |
| 法人税等調整額 | △10,037 | △28,912 | | |
| 当期純損失 | 1,149,762 | 525,700 | | |
| 前期繰越利益 | — | 361,979 | | |
| 当期末処理損失 | — | 163,721 | | |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて記載しております。

■ 会社概要 / 経営体制

会社概要 (平成19年3月31日現在)

社名 オンコセラピー・サイエンス株式会社 (通称 OTS)
設立 平成13年4月
資本金 34億65百万円
代表者 代表取締役社長 富田 憲介
証券コード 4564
本社 〒213-0012
神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1
電話 044-820-8251 FAX 044-820-8252
従業員数 55名 (平成19年3月末日現在)
取引銀行 住友信託銀行株式会社
株式会社三菱東京UFJ銀行
株式会社三井住友銀行
事業内容 癌関連遺伝子及びその遺伝子産物に関する情報並びに創薬候補物質の提供

経営体制 (平成19年6月28日現在)

代表取締役社長 富田 憲介
取締役副社長 中鶴 修一
取締役 山路 弘志
取締役 角田 卓也
取締役 中村 祐輔
監査役 郡 義久
監査役 野口 清
監査役 高木美也子

ホームページのご紹介

最新のニュースリリースやIR資料などを掲載しております。
ぜひご覧ください。

<http://www.oncotherapy.co.jp/>



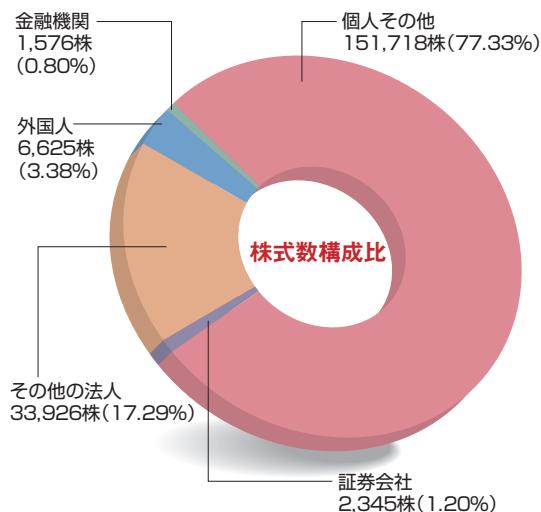
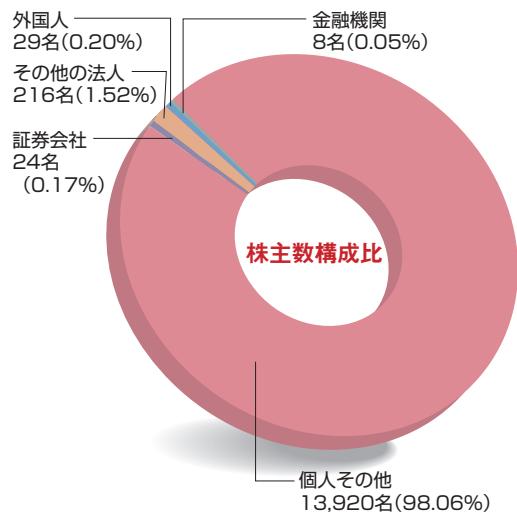
株式の状況

発行可能株式総数 770,000株
 発行済株式の総数 196,190株
 株主数 14,197名
 大株主 (上位7名)

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|-------------------------------|----------|---------|
| | 持株数(株) | 出資比率(%) |
| 中村 祐輔 | 21,750 | 11.09 |
| CSK-VCバイオ・インキュベーション投資事業有限責任組合 | 14,427 | 7.35 |
| 株式会社CSK-IS 代表取締役社長 青園 雅紘 | 14,400 | 7.34 |
| 古川 洋一 | 10,500 | 5.35 |
| 荒川 博文 | 10,200 | 5.20 |
| 中鶴 修一 | 9,900 | 5.05 |
| 田原 秀晃 | 9,000 | 4.59 |

(注) 個人名の敬称は省略させていただきます。

株式分布状況





株式事務のご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
(その他のご照会) ☎0120-176-417
同取次所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載方法 当会社の公告方法は電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
なお、電子公告は当会社のホームページにしておりそのアドレスは次のとおりです。
<http://www.oncotherapy.co.jp/>
上場証券取引所 東京証券取引所

●本報告書に関するお問い合わせ先

オンコセラピー・サイエンス株式会社 管理部
電話：044-820-8251